

## スポーツの推進 (デジタルサイネージ、ボッチャの推進)

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第18回の今日は、「スポーツの推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 「スポーツの推進」といいますと、体育施設の整備や競技スポーツの振興など様々なものが考えられますが、今年度、三島市が力を入れている取り組みはどのようなもののでしょうか。

市長： はい。

今年度は、主な取り組みといたしまして、「デジタルサイネージ」を活用したスポーツ関連情報などの発信と「ボッチャの推進」の2つを進めております。

アナ： まず、「デジタルサイネージ」についてですが、どのような事業なのか教えてください。

市長： 「デジタルサイネージ」ですが、これは、インターネットに接続された電子看板専用のディスプレイを、市民体育館や市役所、公民館など市内各所に設置し、民間も含めたスポーツ情報をはじめ、新型コロナウイルス感染症や災害に関する情報などの様々な市政情報を、リアルタイムで市民の皆様に発信し、市民サービスの向上を図るものです。

この事業は、ランニングに関する日本最大級のポータルサイトを運営する民間事業者様との共創により実現いたしました。

アナ： 最新のスポーツ情報や市政情報を知る新たなツールが増えることで、ますます便利になりますね。

次に、「ボッチャの推進」ではどのような取り組みを行っていくのでしょうか。

市長： ボッチャは、東京2020パラリンピックの正式種目であり、日本人選手が大活躍いたしましたので、多くの方に知られるようになってきましたが、実は、三島市では、パラリンピック以前から、幼稚園や保育園、小学校、シニアクラブなどで体験会を実施しておりまして、今年度は、障害のある方を対象とした月1回の定期教室を開催しています。

また、来年3月には、障がいの有無や年齢にかかわらず、どなたでも参加できるボッチャの交流大会を、三島市スポーツ推進委員の皆さんが開催してくれる予定となっております。

アナ： なるほど。

障がいの有無にかかわらず、また、様々な世代が集まる大会は珍しいですね。

市長： はい。

ボッチャは、どんな方でも一緒にできる競技です。

お友達同士はもちろん、家族3世代でチームを組むこともできますので、3月の大会には、多くの方に奮ってご参加いただきたいと思います。

アナ： たくさんの方にご参加いただけるといいですね。

市長： はい。

また、2つの取り組みのほか、今年度から新たに、NPO法人が実施する「スポーツみしまチャレンジキッズ育成事業」という事業の支援も行っています。

アナ： 支援といいますと、具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか。

市長： はい。

1つは、4月29日に開催した「スポーツ・デー」の中ですでに実施いたしました、自分に向いているスポーツがわかる体力測定です。

もう1つは、ダイバーシティ教育プログラムであるブラインドサッカーの体験教室の実施です。

ブラインドサッカーとは、ゴールキーパー以外はアイマスクを装着し、音の出るボールを用いて行うサッカーで、今年度は、佐野小学校と南小学校で体験教室を行います。

この教室は、視覚に障がいのある選手が講師となりまして、ブラインドサッカーを通して子ども達と触れ合い、障害のある方への理解の促進だけでなく、相手を思いやる想像力やチームプレーを進める上でのコミュニケーション力などを育み、子どもたちに多くの気づきや学びを提供する取り組みです。

アナ： どちらもとてもおもしろそうで、私も体験してみたくなりました。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。